

巡査教習所生徒着服并提灯左ノ通相定メ候條爲心得此旨相達

候事
但懲戒巡査着服等ノ儀ハ在來ノモノヲ用ヒシメ別ニ支給不致候事



〔第六號〕 明治十三年一月十六日

各課各分署

巡査教習所職制章程并規則等別紙ノ通相定メ候條爲心得此旨相達候事

一 教習所職制

所長 大警視ノ命ヲ奉シテ生徒教習所并ニ所中一切ノ事務ヲ管理ス 幹事以下ノ吏員ヲ監督指令シテ事務ヲ分掌セシム 所中ノ事務ヲ區分シテ諸掛ヲ置ク 幹事以下ノ勤怠ヲ監視シ其進退黜陟ヲ具狀ス

幹事 命ヲ所長ニ受ケテ事務ヲ分掌シ且所長ヲ補助シテ所務ヲ贊成ス
部長 命ヲ所長ニ受ケテ生徒並教戒巡査ノ教授訓誡ノ事ニ任ス生徒並教戒巡査ノ勤怠ヲ視察ス其進退黜陟及ヒ教習上ノ得失ハ幹事ヲ經テ所長ニ申ス
副部長 所長及ヒ部長ノ指揮ニ隨ヒ生徒并教戒巡査ノ教授訓誡ノ事ニ任ス
書記 副部長以上ノ指揮ニ從ヒ專ラ文書往復記録編纂并製表等ノ事ニ任ス
用度 副部長以上ノ指揮ニ從ヒ專ラ文書往復記録編纂并製表等ノ事ニ任ス
庶務 事務章程檢査并命達ニ付掛置ク選任罷免并薪給補給并高一人不稱合ノ諸事

本所ノ事務ヲ大別シテ上下二款トス其上款ハ所長意見ヲ具シ方面掛ヲ經回シ大警視ノ指揮ヲ乞フテ施行スル者トス其下款ハ所長委任ノ權ヲ以テ專決施行スル者トス

- 上款第一 教習上ニ關スル諸定規及ヒ授業上ノ科目等ヲ改正増減スル事
- 第二 滿期卒業生徒ヲ任職シ及ヒ教戒巡査ヲ復署セシムル事
- 第三 生徒ノ定期内卒業ニ至ラサル者及教戒巡査ノ其効ナキ者ヲ處置スル事
- 第四 生徒及ヒ教戒巡査ノ定規外ニ係ル賞則并ニ生徒ヲ免黜スル事
- 第五 新ニ場舎ヲ建設シ及ヒ定規外ノ費額ヲ要スル修繕ヲ爲ス事
- 第六 教習所ニ關スル費額定則ヲ變更スル事
- 下款第一 生徒及ヒ教戒巡査ヲ定則ニ依リテ教習訓誡スル事
- 第二 定則ニ照シ生徒并教戒巡査ノ試験ヲ爲シ及ヒ毎級卒業者優劣ヲ制定スル事
- 第三 生徒并教戒巡査非常心得ノ爲メ夜中不時ノ集合ヲ爲サシムル事
- 第四 定則ニ照シ課業表ヲ製シ及ヒ每期試験ニ生徒ノ優劣ヲ所内ニ揭示スル事
- 第五 月報年報表等ヲ製シテ申報スル事
- 第六 定則ニ依リ生徒ノ授業時間并檢査ノ時日ヲ適宜伸縮スル事
- 第七 生徒及ヒ教戒巡査ノ規則ニ違フ者ヲ規則ニ照シテ處分スル事
- 第八 定規アル事件ニ就キ本署各課掛分署并各府縣等ニ照會往復スル事
- 第九 毎月適宜ニ日ヲ定メ幹事并正副部長ヲ以テ所務及ヒ授業上ノ會議ヲ爲ス事
- 第十 所中ノ修繕二圓五十錢以內ニ係ル者ヲ定規費額ヲ以テ直チニ執行スル事
- 第十一 所中需用ノ器物ヲ定則各分署ノ定則ニ照シ購買スル事

第十二 雇并小使等ヲ進退黜陟スル事

教習所規則

第一條 本所ハ專ラ巡查ヲラント欲スル者ヲシテ其職務ヲ練習セシメ兼テ又巡查ヲ訓戒スルノ所トス故ニ一ハ生徒ト稱シ一ハ教戒巡查ト稱シ以テ二別ス

第二條 凡ソ生徒ハ入所教習ノ期ヲ三ヶ月トシ期限中卒業セシ者ハ本署ニ具申シテ其職ニ任セシム尤定期ヲ俟タズシテ卒業ニ至ル者及ヒ特別ニ執業ヲ要セザル者ノ如キハ臨時試験シテ直ニ職務ニ就カシムルコアルベシ

但教戒巡查ハ定則ニ照シテ訓戒シ本署ノ決ヲ乞フテ復署セシム

第三條 生徒所用ノ書籍器械寢具等ハ一切貸與スヘシ

但故ナク破毀若シハ遺失スルモノハ代價ヲ以テ辨償セシム

第四條 現品ヲ以テ支給スル者左ノ如シ

| | | | | |
|----|--------|------|---------|----------------|
| 品目 | 制帽 一 | 外套 一 | シャツ 二枚 | 制服(夏季ハ二組冬季ハ一組) |
| 品目 | 短靴 一足 | 帽覆 一 | 靴下 毎月一足 | |
| 品目 | 官棒 一 | 日覆 一 | 捕繩 一筋 | 手帖 一 |
| 品目 | 呼子笛 一個 | | | |

右ハ本務ニ従事スルナ期トシ返納セシム

第五條 生徒ハ故ナク退所シ若クハ他ニ轉任スルヲ許サズ尤課業怠慢行狀不正及ヒ疾病アリテ勤務ニ堪ヘズ成業ノ前途ナク或ハ屢規則ヲ犯ス者ノ如キハ臨時退所ヲ命スルコアルヘシ

第六條 前條退所ヲ命スル者ハ諸費一ヶ月金三圓五十錢ノ割ヲ以テ償還セシム

但病死スル者ハ其償還ヲ免ス

第七條 在所中疾病ニ罹ルモノハ警視病院ノ治療ヲ受クベシ其退所ヲ命スルモ又同院ノ診斷ニ據ル

但病死スル時ハ其遺體ハ身元引受人ニ下付スベシ

第八條 當直并課業中ハ制外ノ帽服等ヲ着スルヲ許サズ

第九條 課業書ノ外雜書類ヲ展讀スルヲ許サス

但所長ノ許可ヲ受ル者ハ此限ニアラス

第十條 年中休日左ノ如シ 日曜日 父母祭日 大祭祝日

但臨時休業ハ其時々告示スヘシ

第十一條 教戒巡查ニハ一切休日ヲ與ヘス

但不得已事故アル者及ヒ悔悟ノ効アリテ所長ノ特許ヲ受クル者ハ此限ニアラス

第十二條 生徒教習ノ課業ヲ左ノ三級ニ分テ生徒ノ等級モ亦之ニ從ツテ區分ス

- 第三級 手棒携持方、禮式、生兵練兵
- 第二級 注意報告書、小隊練兵

- 警吏須知
- 警吏須知

○警視本署

第一級

犯罪、捕拿及ヒ實見報告書

警視類聚規則、警察手眼

第十三條

右課業ノ外擊劍及捕繩方法ノ一課ヲ設ケ餘暇ヲ以テ適宜之ヲ練習セシム

第十四條

寢起ノ時限ハ日ノ長短ニ隨テ時ニ之ヲ定ム

但寢起トモニ嗽叭ヲ以テ信號トス

第十五條

課業時間ハ日ノ長短ニヨリ伸縮スルコトアルヘシ

第十六條

金土兩曜日ニハ左ノ條ニ照シ試驗ヲ爲スヘシ

但劣等ノ者ハ日曜日ノ遊歩ヲ許サス

隔金曜日

隔土曜日

第三級

手棒携持方、禮式、生兵練兵

警吏須知

第二級

注意報告書、小隊練兵

警吏須知

第一級

犯罪捕拿及ヒ實見報告書

警視類聚規則、警察手眼

第十七條

生徒ノ規則ニ違フ者ハ三週間以下ノ禁足ヲ命ス

生徒并教戒巡查規則

第一條

入所中法度規則ヲ遵守シ上官ノ命令ヲ遵奉ス可シ

第二條

毎朝起後直チニ衾褲ヲ收メ室内ヲ掃除シ鹽漬了レバ室内ノ諸品ヲ整列シテ點檢ヲ受クヘシ

第三條

三回ノ食事ハ嗽叭ノ信號ニテ遲延ナク食堂ニ就クヘシ

第四條

日課中病氣若クハ不得已事故アリテ就業シ難キ時ハ副部長ニ申出部長ノ許可ヲ待ツヘシ

第五條

當番所及ヒ交番所派出其他巡視等ハ副部長ノ指揮ヲ受クヘシ

但交代時限等ハ時々之ヲ揭示ス

第六條

總員ヲ甲乙丙ノ三組ニ分テ夜中ノミ構内各所ニ交番シテ實際ノ方法ヲ演習ス可シ

第七條

交番ノ節ハ其規定ノ域内ヲ運動シ必ス其持場ヲ離ル可カラズ

第八條

交番出務中吸煙シ又ハ交番ノ者ト共ニ雜談シ又ハ室内ニ立入ルヲ禁ス

第九條

交番所及ヒ交番派出其他出勤ノ者ハ各其勤忌録ヘ捺印ス可シ

第十條

所門出入ハ必ス名札ヲ以テス可シ

第十一條

但列伍ヲ組ミ副部長以上之ヲ引率スルハ此限ニアラス

第十二條

入所中ハ一切外宿スルヲ許サズ

第十三條

休暇外出時間ハ晨起點檢後ヨリ正午迄正午後ヨリ午後門限迄トス

第十四條

但遠隔ノ地ニ至ル等ニテ正午ニ歸所シ難キ者ハ外出ノ節其旨副部長ニ届置ク可シ

第十五條

但不得已事故有リテ所長ノ許可ヲ受クル者ハ此限ニ在ラス

第十六條

外田中急病其他不得已事故アリテ門限ニ後ル、時ハ醫員ノ診斷若クハ保証書ヲ添ヘ其事由ヲ副部長ニ届出ヘシ

第十七條

凡警視以下巡查ニ對スル禮式及生徒相互ノ禮式等總テ巡查ノ規則ニ依ベシ

○警視本署

- 第十六條 手帖ハ各自ノ證トスルモノナレハ外出ノ節ハ必ス携帯スヘシ
- 第十七條 胴締ハ上衣ノ下ニシテ手帖并捕縄呼子笛等ハ隠シノ内ニ入レ表面ニ露ハサル可シ
- 第十八條 外套及帽子日覆等着用方ハ都テ巡查ノ定則ニ據ル可シ
- 第十九條 諸官物ハ毎月隔土曜日拂拭ヲナシ正副部長並幹事ノ檢査ヲ受クヘシ
但講堂及ヒ室内等モ本文ノ日時ニ掃除スヘシ
- 第二十條 毎月副部長ノ令ニ從ヒ武器ノ拂拭ヲナスヘシ
- 第二十一條 皇居及諸官省近隣其他非常異變等ノ節ハ各自用意シ不時集合ノ信號アレハ速ニ集合シ所長並部長ノ指揮ヲ待ツヘシ 但休暇外出ノ際ニ在テハ速ニ歸所スヘシ
尤實地練習ノ爲メ夜中不時ノ集合ヲナスコトモアルヘシ
- 第二十二條 外出又ハ交番中警察上ニ關スル事故ヲ聞知スルキハ手帖ニ記シ注意報規則ニ照シ所長若シハ部長ニ申報スヘシ
- 第二十三條 入所中飲酒ヲ禁ス 但親戚朋友ノ賀筵離席等ニ會スルテ以テ部長ノ許可ヲ受ケタル者ハ此限ニ在ラス
- 第二十四條 夜中猥リニ他室ニ入り及ヒ就寢後所内ヲ徘徊スルヲ禁ス
- 第二十五條 分外ノ議論ヲ主張シ及ヒ諸規則等違犯ノ者ハ相當ノ懲戒ニ處ス
但其情狀ニ依リ退所セシムルコトアルベシ
- 生徒并教戒巡查心得
- 第一條 凡ソ巡查ヲラント欲スル者ハ巡查タル可キノ志操ナカルベカラズ志操アルモ

- 亦豫メ其職務ノ事ニ練習セザル可カラズ而ルニ警察ノ事タル甚ダ多端一々指示スルニ違アラズト雖モ要スルニ行政司法兩途ノ外ニ出テス宜シク先ツ此兩大綱ヲ會得ス可シ且警察官タル者ハ刑罰ヲ施ス者ニ非ス專ラ公衆ノ安寧ヲ保全スルヲ以テ目的トナスコトニ注意スヘシ
- 第二條 平常謹慎ニシテ行儀作法ヲ正ウシ人ニ接スル温順誠實ヲ以テシ假初メニモ威權ヲ張ル等ノ事ナク專ラ公衆ノ信憑依頼ヲ受クルヲ要スヘシ
- 第三條 各自節儉ヲ基トシ必ス分限不相應ノ交番等ヲ爲ス可カラズ
- 第四條 人民ニ對シ金談等ヲ頼ミ入レ或ハ物ヲ買ヒ價ヲ借り其他々人ノ依頼ニヨリ貸借受人証人公事訴訟等一切關係スルコト無ルヘシ
但生徒中ニ於テモ互ニ被服及ヒ金錢等貸借スヘカラス
- 第五條 外出中一般ノ人民ニ對シテハ勿論所内諸職人并賄方浴場雇工人等ニ對シテモ聊迷惑セシメザル様注意シ尤小便庖厨人等猥リニ使役スベカラズ
- 第六條 遊歩中必ス不体裁ノ舉動アル可カラズ殊ニ婦女子ニ對シテ戲レガ間敬義等決シテ致スマシク若シ不行狀ノ者アルキハ互ニ相制止シ其事情ニヨリ直チニ幹事部長ニ申告スルコトアルヘシ
- 第七條 外出中事故ニ會セル時ハ左ノ如ク處分スヘシ
- 第一 人民ノ困難危急ヲ見レハ救護ヲ乞ザルモ臨機救援シ交番ノ巡查若シハ最寄分署ニ通報シ歸所ノ上部長ニ申出ヘシ
- 第二 棄兒迷兒瘋癲急病人ノ如キハ懇々介抱シ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三 殺傷人及ヒ行倒レ其他死屍等ヲ見出シタルキハ交番巡查若クハ最寄分署ニ通報スベシ

第四 現行重罪犯人及ヒ確証アル盜品ヲ積ミタル船車等ヲ見認ルキハ取押ヘ交番巡查若クハ最寄分署ニ引渡スベシ 但檢証人アラハ同伴スベシ

第八條 制服着用ノ節ハ卸ヲ掛ケス或ハ腰巻腹帶等ヲ露ハシ又腰帶ニ手拭等ヲ下ケ其他一切不体裁ノ態アルヘカラス

第九條 生徒并教戒巡查當番ノ時ハ勿論平常遊歩ノ節ト雖モ都テ左式ノ名刺ヲ所持スベシ

| | | | |
|-------|-----|---|------|
| 豎三寸 | 教習所 | 同 | 教習所 |
| 横一寸三分 | 生徒 | 同 | 何等巡查 |
| | 何 | | 何 |
| | 誰 | | 誰 |

第十條 不得已事故アリテ定時限内ニ歸所シ難キコトアルキハ豫メ其事由ヲ書面ニ認メ所長ノ認許ヲ請クベシ

第十一條 部長ノ許可ナクシテ賣物品ヲ門外ニ出スコカラス

第十二條 凡ソ意見アルキハ總テ順序ヲ經申告スベシ且其事タル確實ヲ旨トシ假初メニモ言ヲ飾リ功ヲ銜フ等ノ所爲アル可カラス

第十三條 所中ニ於テ歌吟シ其他疾走等粗暴ノ舉動アル可カラズ

第十四條 外來人アリテ對談ヲ要スルキハ總テ應接所ニ於テスベシ 但課業中ハ之ヲ許サスト雖モ已ムヲ得ザル事故アリテ所長ノ許可ヲ受ルハ此限ニ在ラス

第十五條 官棒ハ自身ヲ擁護スルモノナレバ假令在暴人ト雖モ濫リニ打擲スベカラス 尤防護ノ力及ヒ難キモノハ此限リニ在ラス

〔第七號〕 明治十三年一月廿六日 各 分 署

明治十一年(十月)第四百四十五号達シ左ノ通改正候條此旨相達候事

一 巡查無届他行シテ歸署セサル者アルキハ先ツ諸届簿ヲ以テ申出ツヘキ事
一 其一週間ニ歸署セザル者ハ事情ヲ詳具シ更ニ開申スヘキ事

但一週間ヲ經過シテ尙ホ歸署セサル者モ本項ノ通り具申スベシ

〔第八号〕 同 十三年一月廿八日 各 課 各 分 署

出火ノ節出張ノ官吏辨當料ノ義從前壹入金二錢五厘支供ノ處當分金三錢ニ改正候條此旨相達候事 但是迄時間ニ不拘申出ノ向モ有之候得共以來出場ヨリ四時間迄ハ一本餘

四時間毎ニ一本ツ、支給候儀ト可相心得事

〔第九號〕 同 十三年一月廿九日 各 課 各 分 署

明治十二年(一月)第一號ヲ以テ皇居始メ青山御所向零圖朱點ノ御門内ハ別段達シ有之者ノ外立入り候儀不相成旨相達置候處制規ノ帽服着用帶劍ノ節ハ皇居中ノ御門青山御所一ノ御門ニ限り無鑑札通行不苦候條爲心得此旨相達候事

但青山御所一ノ門閉扉ノ節ハ二ノ御門通行ノ事

〔第十號〕 同 十三年一月卅一日 各 課 各 分 署

別紙ノ通り各病院ヘ相達候條爲心得此旨相達候事

○警視本署

別紙

各病院

是迄町村一般ノ患者依頼スル節ハ治療又ハ入院差許來候處自今相廢シ職務心得更ニ別紙之通り改定候條此旨相達候事

警視病院職務心得

第一條 院長各院一員ヲ置ク

第一 該病院一切ノ醫務ヲ管掌シ幹事以下各醫員ノ勤怠及ヒ治療ノ巧拙ヲ監視シ其黜陟スヘキハ第二課長ニ稟議スヘシ

第二 管内一切ノ警察醫事ヲ主宰シ及ヒ各分署警部補以下巡查ノ診斷治療ヲ可施行

第三 外國人ニ關涉シ他日裁判ヲ要ムヘキ變死人及ヒ負傷者アリテ其原因詳悉シ難ク外國教師ノ診斷ヲ乞ハザルヲ得ザル場合ニ於テハ其事由ヲ具申スベシ

第四 警部補以下瘴氣ニ付解職ヲ願フ者ノ診斷ヲ本人ニ示サス封書ニシテ直ニ該署長ヘ送付スベシ

第五 檢査上ニ係ル重大ノ診斷ハ必自ラ之ヲナシ其他ハ幹事以下ヲシテ代理セシムル事アルベシ

第六 諸願同届等ヲ出ス時ハ其可否ヲ考按シ異存ナキハ之レニ檢印ヲ捺スベシ

第七 凡ソ管内傳染病發起ノ兆候アラハ速ニ其景狀ヲ具申シ各院長協議ノ上豫防方法ノ意見書ヲ差出スヘシ

第八 警部補兼巡查疾病ニ罹リ入院又ハ引籠リ療養スヘキモノト看認スル片ハ成規ノ証書ヲ附與スヘシ

第九 警部補以下入院ノ者ハ外出運動適應ト見認ムル時ハ方面掛ノ檢印アル運動証書ヲ附與スヘシ

第十 各分署ヨリ途上急病人又ハ負傷者等アルノ通知アラハ不取敢救急ノ方ヲ施スヘシ 但方一分署ノ手ヲ經ルノ問合無之直チニ訴來ル節ハ一時施治ノ上該管轄分署ヘ照會スベシ

第十一 第四第八第九第十項ノ如キハ時機ニヨリ幹事ヲシテ代理セシムルヲ得

第二條 副院長院長欠員ノ時之ヲ置ク職務院長ニ同シ

第三條 幹事各院一員ヲ置ク

第一 院長ノ命ヲ受ケ内外ノ庶務ヲ管掌シ常直醫以下ノ勤怠ヲ視察シ異狀アラハ院長ニ具中スヘシ

第二 非常急遽ニ應スルカ爲メ常ニ院内官舎ニ居住スヘシ

第三 檢視上ニ係ル診斷ハ院長ノ主務アリト雖モ不在或ハ事故アリテ出張シ難キ時又ハ事重大ナラサルモノハ之ヲ代理スヘシ

第四 各病院輪番ヲ以テ一名ツ、各貸座敷地ヘ出張シ徽毒檢査ヲ主幹スヘシ

第五 常直醫及ヒ副常直醫ヲシテ徽毒檢査掛ヲ兼ネシメントスル時ハ人選ノ上院長ヘ申出ツヘシ

第六 入院患者ニ與フル三次ノ食ヲ點檢シ賄人ヨリ出ス所ノ日表帳ニ檢印スヘシ

第七 時々病室内ヲ巡視シ不衛生又ハ不取締ナキ様ニ注意スヘシ

第八 各醫員ノ進退ニ關スルノ事件ヲ除ノ外諸願同届書ヲ作り之ヲ院長ニ出スヘシ

第四條 當直醫

- 第一 院長及ヒ幹事ノ指揮ヲ受ケ參院患者ノ代診ヲナスコトヲ得
- 第二 非常急遽ニ應スル爲メ輪番ヲ以テ二名宿直ヲナスヘシ
- 第三 各署ヨリ變死人并負傷アルノ通報アラハ院長又ハ幹事ノ指揮ヲ受ケ直チニ該所ニ出張シ檢診ノ上診斷書ヲ作り更ニ院長幹事ノ意見ヲ乞フヘシ
- 第四 該方面出火ノ節ハ直チニ其場所ニ出張シ方面掛ヘ届出其指揮ヲ受クヘシ但他ノ方面ノ出火タリトモ應援ノ信號アルキハ本文ノ通り心得可シ
- 第五條 副當直醫
- 第一 職務當直醫ニ亞ク
- 第二 看護掛ヲ置カサル病院ニアリテハ其事務ヲ兼任シシムルコトアルヘシ
- 第三 一名又ハ二名ヲ以テ該院貯藏ノ器械ヲ主管シ手術アルキハ之レカ準備ヲナシ若シ破損等アルキハ修理ノ手順ヲナスヘシ
- 第六條 看護掛
- 第一 輪番ヲ以當直ヲナシ屢病室ヲ巡視シ患者ヲ攝生ナキ様精密看護ニ注意スヘシ
- 第二 院長并幹事等病室ヘ廻診スル時ハ隨從ノ病症經過及處方等ヲ詳細登錄スヘシ
- 第三 看護婦ノ勤怠ヲ監督シ其黜陟スヘキハ會計掛協議ノ上幹事ヘ申出ヘシ
- 第四 警部補巡查入院スル節ハ其等級姓名ヲ詳細帳簿ニ記載スヘシ
- 第五 入院患者變症ヲ發スル等總テ異狀アラハ速ニ宿直醫員ニ申告スヘシ
- 第七條 調藥監

- 第一 調藥ニ係ル一切ノ事務ヲ管掌シ調藥掛ノ勤怠ヲ監視シ調劑上無誤謬様可注意
- 第二 醫員ヨリ送付スル處方ヲ受附査シ上檢印ヲナシ調藥掛ヘ附與シ調劑シシムヘシ
- 第三 製藥所ヨリ受取ル藥品ノ精粗ヲ審査シ若シ不良ノ品アラハ其旨ヲ院長ニ申稟シ交換ヲナスヘシ
- 第四 一個月一回藥品ノ出納ヲ調査シ之ヲ帳簿ニ登記スヘシ

第八條 調藥副監調藥監缺員及ヒ不在ノ節ハ其事務ヲ代理執行スヘシ

第九條 調藥掛

- 第一 調藥監ノ指揮ヲ受ケ調劑ヲナシ其都度處方箋月日ノ下ニ押印ヲナスヘシ
- 第二 附與セラル、所ノ處方箋ヲ密按シ若シ疑難アラハ調藥監ニ質問シ些ノ事タリト雖モ臆斷ヲ以テ調劑スヘカラズ
- 第三 藥品及ヒ器械等闕欠ナキ様日々調査シ若シ欠乏品アラハ院長又ハ幹事及ヒ調藥監ノ檢印ヲ得テ受取方制藥所ト照會スヘシ
- 第四 輪番ヲ以テ一名宛宿直ヲナスヘシ
- 第五 日々出納スル藥品ハ藥品出納日表ヲ製シ詳記シ置クヘシ

〔達〕 明治十三年一月卅一日 各病院

今般警視病院職務心得改正候ニ付警視本病院相廢候條此旨相達候事
但製藥所ノ義ハ第二課衛生掛ニテ管理セシメ候事

〔番外〕 同 十三年一月十二日 第一方面三四分署
兼テ飲料水注意法并厠構造規則等布達ノ趣キ有之候處今般管内火災ニ罹リ候場所ハ新

築ノ際右兩條規則ニ準據シ構造方改良行届候様精々注意可致爲心得此旨相達候事

〔番外〕 明治十三年一月十六日 第一課巡查教習所
其所詰警部之内一名毎朝第九時警視本署へ御用伺トシテ出頭可致此段相達候事

〔番外〕 同 十三年一月十六日 第一課巡查教習所
其所々長幹事及ヒ正副部長出勤ノ節ハ帶劍可致此旨相達候事

〔番外〕 同 十三年一月廿二日 各 課
去ル十年西南騷擾ノ際出張ノ判任官姓名并ニ出張中判任ニ昇等致候者ハ年月日取調へ來ル二十五日限リ軍藉掛リへ可届出此旨相達候事

〔番外〕 同 十三年一月廿四日 第一課巡查教習所
其所詰警部以下巡查御用都合ニヨリ各分署同様通常并慰勞休暇賜リ候條此旨相達候事

〔番外〕 同 十三年一月廿四日 各 分 署
明治十三年度豫算帳別紙雛形ニ照準取調本月三十日迄ニ無遅滞第四課へ可差出此旨相達候事

表 紙

| | |
|-----------------|----------------|
| 明治十三年度 經費豫算帳 | 警視第何方面 第何分署 |
|-----------------|----------------|

| | |
|---|--|
| <p>第何方面第何分署 十三年度經費豫算</p> <p>一金 雜給</p> <p>内譯 備給</p> <p>金 給仕給料</p> <p>金 小使給料</p> <p>金 繩取雇給料</p> <p>金 御用多又ハ小使 人少ノ節雇賃</p> <p>金 至急御用人力車賃</p> <p>金 手數料</p> <p>金 小札引替等ノ節</p> <p>金 雜費</p> <p>金 諸祭禮其外派出 ノ節中宿料ノ類</p> <p>一金 廳費</p> | <p>内譯 備品</p> <p>金 器械其外修繕代</p> <p>金 消耗品</p> <p>内 焚炭</p> <p>金 油蠟燭</p> <p>金 紙類</p> <p>金 筆墨肉類</p> <p>金 ランブアホヤ眞燈心 付木生歎帶ノ類</p> <p>金 印刷費</p> <p>金 郵便稅</p> <p>金 電信料</p> <p>金 運搬費</p> <p>金 受取物納物類ノ節</p> <p>内 賄費</p> |
|---|--|

| | | | |
|----|----------------------------|--------------------------------|------|
| 金 | 署員臨時辦當料 | 一金 | 被服費 |
| 金 | 小使宿直辦當料 | 給仕ノ分 | |
| 金 | 諸禁禮其外派出 辦當料 | 右明治十三年度經費豫算書面ノ通有之候也 何方面何分署長 | |
| 一金 | 營繕費 但貳圓五拾錢已 下ノ修繕費 | 明治十三年一月 | 官姓名印 |
| 一金 | 探偵費 平常探偵費又ハ 探偵ノ爲人力車代 | 本署 第四課長 少警視石原近義殿 | |

〔番外〕 明治十三年一月廿四日

水上警察署

其署詰警部補以下別紙之通定員相定候條此旨相達候事

水上警察署

警部補四名 警部試補七名 一等巡查八名 二等巡查十五名 三等巡查三十名
 四等巡查三十八名 機關士一名 一等火夫二名 二等火夫一名 一等水夫二等水夫各一名
 水夫長一名 一等水夫一名 二等水夫十六名 三等水夫十二名 四等水夫四十名

〔口達〕 第二課 同 十三年一月廿九日

湯屋仲間取締

湯屋各組合公選ヲ以テ年行事二名又ハ三名ヲ置總ニ取締ノ差圖ヲ受組内事務辦理候様

可爲致爲心得此旨相達候事

〔東京府〕 布達

〔甲第壹號〕 明治十三年一月十六日

群馬縣南甘樂郡麻生村柏木村地所建物質入書入公證割印帳燒失ニ付若シ右地所建物質
 抵當ニ取置キ戸長ノ公證ヲ受タル證書所持ノ者有之ハ本年三月三十一日迄ニ該村戸長
 役場へ申出ヘシ期限經過ノ上ハ一切關係ナキモノトシ公証セシムヘキ趣同縣ヨリ通知
 有之候條此旨布達候事 但シ本文期限中新タニ公証ヲ要スル者ハ他ニ質入書入無之旨
 二名以上ノ保証人ヲ立ヘシ

〔甲第二號〕 同 十三年一月十六日

府會議ニ附スヘキ事件有之本月二十三日ヨリ府廳構内議事堂ニ於テ臨時會相開候條此
 旨布達候事 (議案ハ次号ニ掲ク)

〔甲第三號〕 同 十三年一月十九日

秩祿公債証書 參百圓リ印、七八九九番 壹枚 五拾圓リ印、九〇八三番 壹枚
 右ハ兵庫縣士族本山勝馬記名ノ分所在知レサル趣密藏(十一月)甲第百十四号ヲ以及布
 達置候處今般發見候條此旨布達候事

〔甲第四號〕 同 十三年一月廿三日

牛込區小石川區淺草區ニ於テ府會議員各一名關員有之候ニ付補闕ノ爲メ來ル二月中選

○東京府

舉會相開候條此旨有違候事 但投票期日及選舉會場ノ義ハ區長ニリ相達スヘシ
〔甲第五號〕 明治十三年一月廿三日
本年第一期醫術開業試驗ノ儀來ル二月二十日開場候條志願ノ者ハ同月十日限り願出ヘシ此旨有違候事

〔東京府〕 達

〔乙第一號〕 明治十三年一月十四日 郡區役所 戶長役場
當廳明治十二年第六十號達シ學務委員撰定方違テ何分ノ儀相違候迄見合スヘシ此旨相違候事

〔乙第二號〕 同 十三年一月十四日 郡區役所 戶長役場
明治十二年第四十號公布第廿六條ニ有之公立學校ノ土地トハ學校構内ノ土地ニ限ルモ

ノニシテ其他ハ民有地第一種ノ儘ニテ免稅相成ヘキ主意ニ候條心得ノタメ此旨相違候事
〔乙第三號〕 同 十三年一月二十日 郡區役所 戶長役場
荒地并餘下年季ノ地所滿期ニ至リ候分ハ其翌年一月十五日限り郡區役所ヲ經由シテ届出候條取計フヘシ此旨相違候事

〔乙第四號〕 同 十三年一月廿一日 郡區役所 戶長役場
當廳明治十二年(二月)乙第八號達國稅金領收順序ニ屬スル委員領收證離形中違テ以下ノ十字刪除候旨大藏省ヨリ達越候條此旨相違候事

〔乙第五號〕 同 十三年一月廿一日 郡區役所

從前府廳ニ於テ付與セシ諸車ノ番号ハ本年二月廿日限り各郡區ノ番号ニ改メ更ニ付與スヘシ尤モ檢印ハ更正ニ及ハス且ツ今後賣買等ニテ甲郡區ヨリ乙郡區ヘ移轉ノ分モ檢印ハ總テ据置番号ノミ更正スヘキ儀ト心得ヘン此旨相違候事

〔東京府〕 達

〔丙第一號〕 同 十三年一月八日 郡區役所

昨年十二月廿六日類燒ノ際倉卒各所ニ離散シ目下據ルトコロナキ難澁ノ者ハ取調ノ上相當ノ救助可致候條來ル三十日限日本橋區又ハ京橋區ノ内其本住區役所ニ可申出旨郡區内ヘ可及告示此旨相違候事

〔丙第二號〕 同 十三年一月十二日 郡區役所

郡區吏月俸規則第三條但書左ノ通改正候條此旨相違候事
但上下半月内ニ免職更ニ任官ノモノハ前官ノ俸ハ第二條免職ノ例ニ據リ後官ノ俸ハ同條新任ノ例ニ據リ支給スヘシ
日給ヨリ月給ニ轉シ月給ヨリ日給ニ轉スルノ如キハ十五日前後ヲ以テ區分シ其多キ方ニ依リ支給スヘシ

〔丙第三號〕 同 十三年一月十二日 郡區役所

當廳明治十二年乙第五十八號達中神官進退願ノ節重立タル神官連署トアルハ組合府總社祠堂ノ連署ヲ要スル儀ト心得ヘキ旨郡區内ヘ告示スヘシ此旨相違候事

○東京府

〔丙第五號〕 明治十三年一月十七日 郡區役所

今般日本橋區京橋區ノ大災ニ付避難所ニ差置キタルモノ及ヒ處々ニ散在シテ困窮致シ居リ候者ノ儀ニ付テハ過日來救濟ノ方法ヲ設ケ連々相達シタル儀モ有之候處右ノ方法ニ照準シテ取扱フヘキ者ノ外即今既ニ自活ノ業ニ就キ居ル者ト雖モ罹災ニ原因シテ困窮スル者及ハ家族ノ者燒死負傷等ノ爲メ困窮スル者ハ詳細取調來ル三十一日迄ニ可申出此旨相達候事

〔丙第七號〕 同 十三年一月廿二日 郡區役所

第二回内國勸業博覽會當府委員詰所ノ儀都合有之本日ヨリ麩町區永樂町二丁目一番地第一勸工場内へ移轉事務取扱ハ候ニ付向後該會ニ管スル諸願伺届等ハ出品人ノ便宜ニ依リ直ニ同所へ差出シ苦シカラス候條各出品人へ告示スベシ此旨相達候事

〔丙第八號〕 同 十三年一月廿六日 郡區役所

別紙戊第六號ノ通り府會議員へ相達候條傳達方取計フヘシ此旨相達候事

〔戊第六號〕 同日 府會議員

地方官會議ノ節府會議員ハ毎日五人ノ傍聽ヲ被許候條此旨相達候事

但シ地方官會議院ハ麩町區寶田町一丁目二番地ニ被置候事

〔通知〕 收稅課 同 十三年一月十日 郡區役所

昨年十二月丙第四一十號ヲ以テ御達相成候諸營業人調書收稅委員へ可差出云々但書ニ本廳直營ノ分ハ此限ニアラスト有之然ルニ賣藥并ニ五十石以上諸船之義モ本文ノ通該

郡區長ヨリ直ニ御差出可相成義ニ候間此段更ニ申進候也

〔通知〕 庶務課 同 十三年一月十日 郡區役所

神官選舉願ニ付府郷社神官ヨリ被選人ノ身分上照會有之節ハ詳悉御取調御答應可有之長官ノ命ニ依リ此段及御通知候也

〔昭會〕 徵兵支署 同 十三年一月十二日 各郡區役所

客年進達相成候各名簿(徵收名簿平時免役名簿國民軍外免役名簿)中客歲十月廿七日以後後身上異動届之義ハ追々御差出ノ向モ有之候處右ハ調査都合モ有之候條來十二日迄ノ分ハ各二葉ツ、更ニ御取纏メ早々御差出有之度且十二日以後ニ係ル者ハ其都度當署へ御差出有之度此段及御照會候也

〔通達〕 租稅課 同 十三年一月十五日 各區役所

從前人民所有川蒸氣船ノ義積噸數ヲ免狀鑑札下附徵稅致來候處今般其筋指令ノ趣有之ニ付目今該船海洋ニ漂及不致モノハ一般川船ニ準シ其廳ノ檢印ノ上鑑札下附致梁間長間數ニ應シ徵稅御取計可相成旨長官ノ命ニ依リ此段及御通達候也

〔通知〕 庶務課 同 十三年一月二十日 各郡區役所

昨十二年當廳乙第五十号ヲ以區限町村限協議費決算報告ノ義達相成候ニ付テハ別紙書式ノ通調製毎年一月廿五日限リ御差出可相成命ニ依此旨及御通知候也(別紙書式器ス)〔通達〕 學務課 同 十三年一月二十日 郡區役所并各公立小學校來ル二月初旬ヨリ大試驗施行ノ筈ニ付テハ右試驗可相受生徒人員取調本月卅一日限リ

御申出有之度此段及御通達候也
退テ巡回訓導當學校之分ハ右訓導ニ於テ取繼メ直ニ御申出有之度候也

〔達〕 本府 明治十三年一月 日 三井銀行

當府區役所及郡役所金錢取扱命令書第十三條別紙ノ通改正候條此旨相達候事

第十三條 當府郡區役所預金ニ對シ抵當トシ公債証書ヲ成規ノ手續ヲ經テ差出置ヘシ

〔通知〕 租稅課 同 十三年一月廿二日 各郡區役所

官有地拜借料徵收ノ義自今年限テ期シ許可ノ分ハ貸渡返地共該月分ニリ收除シ其月數
ナ期シ貸渡候分ハ返地共該月廿五日前後ヲ以テ速ニ區分收除候義ト決定相成候間左様
御承知有之度此段及御通知候也

〔昭會〕 徵兵事務官 同 十三年一月廿四日 各郡區役所

徵兵適齡ノ内附籍ハ一般戶主同一ニ候得共其嗣子或ハ承祖ノ孫ハ徵集可相成趣ニ付豫
テ承知致度候條其人名御取調有無共至急御申出相成度此段及御照會候也

〔第壹號〕 報告學務課 同 十三年一月廿六日

小學師範學科試驗施行相成候條志願之者ハ其試驗ヲ受クベキ學科及住所姓名ヲ記載シ
二月十日迄ニ本課ヘ申出ヘシ此旨報告ス

〔第二號〕 報告學務課 同 十三年一月廿六日

今般第一中學校ニ於テ正則科三十名變則科五十名入學差許候條志願之者ハ二月廿五日
限リ同校ニ申出ヘシ此旨報告ス

〔第壹號〕 勸業課報告 同 十三年一月九日

京都府下大宮御所内ニ於テ明治十三年三月一日ヨリ六月八日マテ百日間博覽會開場候
旨同府ヨリ通知有之候條有志之者ハ規則書ノ通相心得可致出品最モ返送費ハ條例ニ拘
ハラズ該社ヨリ辨償之等ニ有之候此旨報告ス

〔第貳號〕 勸業課報告 同 十三年一月十二日

但規則書ハ永樂町二丁目當府第一勸工場ニ備アリ就テ覽閱スヘシ
三重縣下伊勢國安濃郡津公園内ニ於テ本年四月一日ヨリ三十日間博覽會開場候旨同縣
ヨリ通知有之候條有志之者ハ規則書之通相心得可致出品此旨報告ス

〔第三號〕 勸業課報告 同 十三年一月十三日

但規則書ハ永樂町二丁目當府第一勸工場ニ備アリ就テ覽閱スヘシ
本年二月十日ヨリ十一日迄三田四國町勸農局育種場ニ於テ諸穀菜種子交換開設相成候
條購求望ノ者ハ可罷出且亦出品致度者ハ種子物ニ限ラス諸苗木農具農產物肥料物等右
日限迄ニ該場ヘ可指出此旨報告ス

〔第四號〕 勸業課報告 同 十三年一月十四日

當明治十三年紅茶製造傳習所左ノ四縣下ヘ開設相成候ニ付テハ當府貫屬華士族平民及
寄留之者ニテ岐阜縣下傳習所ヘ入學志願ノ者ハ來ル三月十五日限リ成規之通府廳ヘ可
願出此旨報告ス (但本年限傳習廢止相成候事)

堺縣下傳習所ヘ 京都府 大坂府 兵庫縣 新瀉縣 三重縣 滋賀縣 石川縣

島根縣 和歌山縣
岐阜縣下傳習所 東京府 神奈川縣 埼玉縣 群馬縣 千葉縣 茨城縣 栃木縣
愛知縣 靜岡縣 山梨縣 長野縣 福島縣 宮城縣 岩手縣 青森縣 秋田縣
山形縣

大分縣下傳習所 岡山縣 廣島縣 山口縣 高知縣 愛媛縣
熊本縣下傳習所 長崎縣 福岡縣 鹿兒島縣

〔第五號〕 勸業課報告 明治十三年一月廿九日

愛知縣下名古屋區門前町名護屋博物館ニ於テ本年四月一日ヨリ五十日間博覽會開場候旨同縣ヨリ通知有之候條有志ノ者ハ規則書ノ通相心得可致出品此旨報告ス

但規則書ハ永樂町二丁目當府第一勸工場ニ備アリ就テ覽閱スベシ

〔第六號〕 勸業課報告 同 十三年一月卅一日

大分縣下豐後國大分郡大分町ニ於テ本年四月十日ヨリ六十日間博覽會開場ノ旨同縣ヨリ通知有之候條有志ノ者ハ規則書ノ通相心得可致出品此旨報告ス

但規則書ハ永樂町二丁目當府第一勸工場ニ備アリ就テ覽閱スベシ

〔地方官會議事務局〕 達 明治十二年一月廿九日 議 員

本年議事ノ儀ニ付左ノ通伺定候條爲心得此旨相達候事

本年下付ノ議案ヲ議スルニ當リ明治十一年第十七號第十八號第十九條及ヒ第三十九條布告中何レノ部ヲ論セス意義若クハ權衡ノ關係アル條項ヲ修正セント欲シ二名以上ノ賛成ヲ得タルモノハ議長之ヲ會議ニ問フテ議隨ト爲スヲ得

伺 指 令 明治十三年一月

〔陸軍服制〕

東京鎮臺ヨリ陸軍省へ伺

先般下副官准士官ト被定候付テハ被服等夫々御改正相成候處乘馬隊ニ在テハ從前ノ通度リ下士官ノ分相用候御成規ニ候哉若又士官用ノ分相用候儀ニ候得ハ御改正相成候條致此段相伺候也 (指令) 伺ノ趣下士官ノ分相用候儀ト可相心得事

〔旅費給與概則〕

熊本鎮臺ヨリ陸軍省へ伺

五島對馬壹岐等ノ隔地ヨリ叙勳者長崎縣へ呼出ノ節旅費給與概則第十一章第二十四條ニ基キ十里詰金四十錢支給致來候處定則ノ旅費ニテハ何分支辨難致難澁ノ趣該縣ヨリ照會有之右ハ乘舟ニアラザレバ難至地ニシテ事實旅費支拂現証書ヲ以テ決算相立候條致度已ニ徵兵召集ノ節モ該縣ニテ大藏省へ伺濟右同様支給取計候趣ニテ類例モ有之候間御聞届相成候條致度此段相伺候也 追テ右御許可ノ上ハ後備軍召集ノ節モ本文同様支給致度此段添テ相伺候也 (指令) 伺之通但船賃并賄料支給日數ハ旅費ヲ給セサル儀ト可心得事

〔學務委員〕

熊本縣ヨリ電報ヲ以テ文部省へ伺

學務委員ハ一郡區内へ二三名ヲ置クモ其地ノ協議ニ任シ宜シキヤ急キ御指揮ヲ仰ク

〔指令〕

學務委員ハ町村ニ置クヘシ郡區ニ置クヘカラス

〔教課書〕

岡山縣ヨリ文部省へ伺

○伺指令

各學校教則經同濟教科書中ニ於テ時宜ニ依リ書名異ナルモ其文義大異ナキ等ノ書籍假令ハ日本零史ヲ日本史零ニ變換流用候等ノ儀ハ其都度伺テ不經直チニ施行候テモ不苦哉此段相伺候也〔指令〕伺之通

〔教育令〕 鹿兒島縣ヨリ文部省へ伺

教育令第二十九條第三十一條ニ依レハ小學補助金ハ自今各公立小學校又ハ縣令ニ於テ町村ノ公益タルコトヲ認ル私立小學校へ記付スルノ外ハ臨時同濟ニ無之候テハ他ノ費目へ遣拂候儀ハ一切不相成候哉爲心得豫テ相伺候也〔指令〕書面伺之趣小學校等へ配付ノ外縣廳於テ他ノ費目へ遣拂候儀ハ不相成儀ト可心得候事

〔地方官會議〕 山形縣ヨリ電報ヲ以テ内務省へ伺

地方官會議傍聽旅費ノ義郡吏員其他縣會議員ハ自費ナルヤ又ハ地方稅ヨリ仕拂不苦哉至急御指揮ヲ乞フ〔指令〕郡吏員縣會議員旅費ハ自費タルベシ

〔巡查被服〕 新潟縣ヨリ内務省へ伺

虎列拉病流行ニ際シ一時雇止之巡查兼務御届致置候節ニ至リ病勢モ漸次凋衰ニ趣キ候ニ付追々減員解職致候分其職之者へ評價爲致相當ト認ムル分ハ拂下取計追テ代價取纏上納仕可然哉此段相伺候也〔指令〕書面伺之通

〔勸業博覽會〕 島根縣ヨリ内務大藏兩省へ伺

第二回内國勸業博覽會規則中看護人ノ義不相見候處先般廣島縣伺ニ同様自辨ノ筈ニ候得共當時御評議ノ次第モ有之尙追テ相達候義モ可有之旨御指令相成候趣新聞紙上ニ掲

載有之果々然ラハ追テ何分ノ御達可相成處本縣下ノ如ハ右看護人到底自辨ニ歸スルハ出品人ノ苦情モ可有之見込ニ付該費用地方稅ヲ以支辨ノ義下問可致積依ハ彌自辨ノ場合ニ候ハ、區類ニ就キ配置ノ人員ヲモ併テ御指示相成度此段相伺候條右ハ縣會ニ可付都合モ有之至急何分ノ御指揮相仰候也〔指令〕書面ノ趣ハ追而何分ノ義可相達候事

〔學區取締〕 岡山縣ヨリ文部省へ伺

從來學區取締ハ各郡長ヲシテ兼務セシメ別ニ御省へ經伺之上巡回學區取締五名ヲ置該給料ハ小學補助金ノ内チ以テ支給致常ニ管内チ巡回人民ヲ誘導シ生徒ヲ獎勵シ就學ヲ督責スル等總テ各地方之學區取締則チ郡區長ト協議シ或ハ甲郡ノ美ヲ乙郡ニ示シ或ハ備前ノ進歩ヲ美作ニ傳播セシムル等一地方取締ノ不及所ニシテ其捷功不少然ル處本年太政官第四十號公布ニ據リ既ニ學區取締ハ總テ相廢シ將來ノ學事ハ學務委員ノ甚關スル處ト雖ヒ該員ノ如キハ町村限リノ權限ニシテ汎ク管内ノ國郡ニ亘リ美事ヲ交通シ智識ヲ交換セシムル等ノ紹介ニ至テハ遠ク不及所ニシテ從來之學事夫カ爲メ却行衰頽シ終ニ明治五年以來之事業モ瓦解難計素ヨリ學務官吏ヲシテ深注意セシムルト雖ヒ僅少ノ人員ニシテ恐クハ盡ス不能依テ當分之内管下一般ノ學事ヲ通監スル吏員五名ヲ官撰シ給料ハ一人一ヶ月五圓ニリ不少二十圓ニリ不多金額是迄同濟之通小學補助金ノ内ニリ支給致度尤可成丈地方ニ委託シ敢テ限外ノ職員ヲ不要旨趣ニ候得共尙卒前陳ノ情態御洞察御許可相成度此段相伺候至急何分ノ御指揮有之度候也 但該職事務章程ハ本旨御許可ノ上更ニ可相伺候也〔指令〕書面伺ノ趣管下一般ノ學事ヲ通監スル吏員ヲ置シハ不苦候得共小學補助金ヲ以右給料ニ支給候儀ハ難聞届儀ニ候事

○伺指令

〔小學補助金〕 愛知縣ヨリ文部省へ伺

今般御布告相成候教育令中第二十八條同第二十九條ニ據レハ公立小學校補助金御配付相成ニ付右補助金配付等取計方ノ義ハ従前小學校補助金取扱ノ通相心得可然哉豫テ此段相伺候也〔指令〕書面小學補助金配付方ノ儀ハ學齡兒童就學兒童學校生徒ノ數又ハ其他適宜ノ方法ニ據リ配付可然事但本文配付方法ノ儀ハ文部省へ經伺ノ上施行可致儀ト可相心得事

〔小學補助金〕 埼玉縣ヨリ文部省へ伺

當縣ニ於テ小學補助金ノ儀ハ明治九年以來悉皆各小學ニ配付致候然ル處本年三月郡區改正財政ノ道一變仕候ヨリ六中學區講習學校廢止致候然ルニ秩父郡ノ如キ山村僻邑ノ地ハ未ダ小學教員ニ乏ク隨テ生徒ノ需用ニ應ジ難ク故ニ教師ヲ他方ニ聘候得者多額ノ學資ヲ費スノミナラス其教師亦久ク止リ不申是畢竟土地ノ然ラシムル所ニ御座候得ハ實ニ不得止儀ニ有之候如此實景ニ付到底郡内ニ於テ小學教師志願ノ者ヲ募リ初等師範學科ヲ授ケルノ外又良法無之候因リテ秩父郡長伊藤榮ヨリ別紙ノ通伺出候秩父郡ハ前陳述仕候通り縣下ノ別天地トモ可中山村僻邑ニ候得ハ其教育ノ儀ニ別格ノ手段ヲ以テ便宜ノ良法不相設候テハ土地相應ノ教育モ不行届隨テ化外ノ民ニ相陷リ候モ難量憂慮罷在候萬一蓋下近傍ノ地ニシテ化外ノ民有之候様相成候テハ白壁ノ一瑕瑾ニ可有之奉存候於是別格ノ儀ニ依テ秩父郡ニ限リ小學補助金ヲ以テ初等師範學校ヲ設置シ郡内教師養成費ニ支消致度依之別紙相添進達仕候間至急何分ノ御裁可相仰度此段相伺候也

〔別紙〕教育之儀ニ付テハ學制御發令以來厚ク御世話爲在候ヨリ秩父山郡ノ如キモ今日ニ至リテハ既ニ六十有餘ノ小學ヲ設立スルニ至レリ然リト雖元來山間ノ僻地ニシテ學業ノ進路他ノ各郡ト相距ルコト甚遠シ故ニ百般事業ニ於ケルモ亦然リ今兒童ノ就學ヲ調査スルニ未ダ學齡ノ半ニ至ラス之ヲ懇諭シテ漸ク就學ヲ促スト雖生徒増員スレハ教員ヲ増サ、ルヲ得ズ此不足ノ教員ヲ他ニ求メント欲スレハ地ノ僻陬ニヨリ多額ノ給料ヲ要シ微々タル資金ニ影響ヲ生スルノミナラス偶雇ニ應スル者アルモ永ク在勤スルコトヲ得ズ教師屢變換スレハ生徒ノ學歩ヲ妨クル亦大ナリ本縣嚮兒玉町ニ講習學校ヲ置キ初等師範生徒ヲ養成セラル、ヤ秩父地方教師志願ノ者漸ク入學ニ歸向スルニ際シ郡制發令財政變更更遂ニ廢校ニ歸シ教員速成ノ道ヲ絶ニ至ル遺憾トスルトコロナリ前件續述スルカ如ク山間ノ僻地學資ノ乏シキ教員ノ寡キ學歩ノ遅キ他ノ各郡ト違ヒ今日尙教員ノ速成ヲ要シ候ニ付本郡ニ限リ當分ノ内從前講習學校ノ學則ヲ以テ郡役所近傍ニ初等師範寮ヲ設ケ本郡十著ノ教員ニ志願アル者ヲ養成シ教員ノ不足ニ充ハ土地民情ニ適シ文教普及ノ旨趣徹底可致依テハ右校費之儀別ニ徵集致シ難ク候ニ付本郡小學へ御配付可相成文部省補助金凡四百五拾圓餘ヲ以テ支消候様致度此段相伺候條至急御裁可相仰候也〔指令〕書面郡長於テ小學補助金ヲ以テ師範學校ヲ設置シ郡内教師養成費ニ支消候儀難聞届筋ニ候事

〔徵兵令〕 滋賀縣ヨリ陸軍省へ伺

今般當縣醫院(公立)ニ於テ醫學教場ヲ設ケ教則ハ專ラ正則ニ準擬シ教授致候ニ付テハ該生徒卒業ノ者及修業ニケ年ノ課程ヲ卒リタル以上ノ者ハ徵兵令第四章第廿九條第六

○伺指令

項及ヒ第三十條第七項ノ旨ニ準シ平時免役及ヒ徵兵猶豫可相成シ勿論ノ儀ト相心得候得共爲念此段一應相伺候也 (指令) 伺ノ趣公立中學校又ハ公立專門學校ニ非サレハ徵兵令第十九條第六項及ヒ第三十條第七項ニ難准儀ト心得ヘシ

〔地租改正〕 高知縣ヨリ地租改正事務局ヘ伺

當縣阿波國地租改正着手順序ハ元名東縣ニ於テ伺濟明治八年管民ヘ心得書等ヲ達示シ耕宅地ノ部分ヨリ着手以降廢合縣及西南ノ事件其他不得止事故有テ遷延シ本年(十二年)ニ至リ漸ク整頓量地價豫定發示之一點ニ際シ前縣令渡邊國武病氣願ノ通リ退職ノ次第ヲ以國道引繼ヲ受ク依テ考フルモノト信認シ赴任ノ後直ニ本州ニ出張シ前途査定ノ獲量地價ヲ以發示シ爰ニ各村承諾シ新租施行ヲ請願スルノ結果ニ至レリ尙詳細ハ御局出張官ヘ御照詢之上別表之通リ明治九年ヨリ新租施行御裁可相成度此段相伺候也但德島市街ニ孕リ候耕地ノ義モ曩ニ開申ノ通比較ヲ採リ併テ別表ヲ呈ス郡村地同様明治九年ヨリ新租施行御裁可相成度候且山林原野雜地等ハ引續調理相伺候積御聞置相成度候也 (指令) 伺ノ趣聞届候條明治九年ヨリ舊稅法相廢シ申立ノ租額ヲ以テ規則ノ通收稅可取計事 但山林原野等ハ整理次第可伺出事

〔徵兵令〕 新潟縣ヨリ陸軍省ヘ伺

徵兵令第二十八條第三項及第二十九條第一項ニ示サレタル嗣子或ハ承祖ノ孫ハ都テ實子實孫ノ其位置ニアリト雖モ此限ニ非ト相心得可然哉此段相伺候也 (指令) 伺之通

〔徵兵令〕 三重縣ヨリ陸軍省ヘ伺

明十三年徵兵適令ニテ情願ニ據リ目下懲治檻入ノ者有之右ハ徵兵連名簿ニ登記ノ上其

事由附箋ニ撮記シ置明年徵兵使巡行ノ際ニ至ルモ悔悟ノ跡不相見檻入願下ク致サレルキハ檢査不致儀ト心得可然哉此段相伺候也 (指令) 伺之趣懲治檻入ノ者ハ尋常ノ徵兵相當ノ者同様徵集ニ可令應儀ト可心得事

〔地租改正〕 廣島縣ヨリ內務省ヘ伺

地籍編纂ノ義者地租改正ノ際丈量ノ方積ヲ基礎トシ尙遺漏ヲ補修シテ整理可致積ヲ以テ調査中ニ候處編纂後改正之義者地籍規則第二章第八條(五ヶ年目改正)第九條(毎年改正)中甲年七月ヨリ乙年六月卅日迄ノ土地變替ヲ改正スヘシト有之候處新開試作地荒地等ノ如キ歷年度ヲ以テ年季ヲ附シタルモノヲ會計年度ニ據リ地簿ノ増減加除致シ候テハ地租帖ノ如キ歷年度ニ調整スルモノト符合セサルノミナラス籍冊上錯雜ニ涉リ可申依テ歷年度ヲ以テ地籍改正致度就テハ右ニ用ユル土地變換簿調製方豫メ管下ヘ示達致度候條何分ノ御指揮有之度此段相伺候以上 (指令) 書面伺之通可取計事

〔金庫警衛〕 長崎縣ヨリ內務省ヘ伺

本年六月丙第三十号ヲ以テ今般國稅金預所御設置ニ付平常巡查ヲシテ護衛可致旨御達ニ依リ右ニ充ル警部費増額相成度段七月十八日附并十月二十八日附ヲ以テ再應云々相伺候處難及詮議旨御指令相成候得共抑モ當縣ノ義ハ會テ開申之通リ管内廣漠加フルニ併取之地ニシテ定員巡查配置スラ行届兼候ニ付到底右之巡查ヲ以テ護衛爲致候テハ愈警察事務上差支ノ恐シ不尠候間曩ニ開申ノ通リ右稅金所内ヘ巡查合宿所ヲ設ケ同所ヨリ晝間ハ時々巡邏爲致夜中ハ壹名宛立番爲致候様致シ度前陳差支之事情御洞察ヲ以テ御聞届相成度此段重テ相伺候也 (指令) 伺之趣聞届候條尙巨細之儀ハ大藏省出納局

○伺指令

可遂協議候事

〔教育令〕

京都府ヨリ文部省へ伺

今般太政官第四拾號ヲ以御發行相成候教育令第三十八條但書ニ師範學校ノ卒業證書ヲ得スト雖モ教員ニ相應セル學力ヲ有スルモノハ教員タルモ妨ナシト有之右學力ノ有無ハ第三十五條ニ准シ本府師範學校ニ於テ之ヲ試驗シ相當ノ等級相定メ證書付與致シ可然哉無左候テハ自ラ學力アリト許シ夫ノ人ノ子ヲ傷フ者間々出來可致被相考候ニ付此段伺出候宜ク御指揮被下度候也〔指令〕書面伺之趣學力證明ノ爲メ師範學校ニ於テ試驗ノ上證書付與候儀不苦候事

〔教育令〕

千葉縣ヨリ文部省へ伺

今般太政官第四拾號公布ヲ以テ從前ノ學制被廢教育令御發行相成候ニ付差向左ノ條件相伺候條至急御指令有之度候也
一大中小學ノ區畫并ニ學區取締ノ職ハ勿論廢止相成候儀ト心得可然哉
一公布第二十一條私立學校ヲ設置或ハ廢止スル者ハ府知事縣令ニ開申スヘシト有之右ハ設置ノ際尙シ實際支障有之者ト認定候ハ、縣廳限差停候テ不苦義ト心得可然哉
一同第二十三條私立學校ノ教員ハ府知事縣令ニ開申スヘシト有之候得共右教則開申ノ際土地ノ情况ヲ察シ該教則中實際不適當ト認定候廉有之ハ夫々指示ノ上引直サセ候様取計可然哉
一同第三十八條但書師範學校ノ卒業證書ヲ得スト雖モ教員ニ相應セル學力ヲ有スルモノハ教員タルモ妨ケナシト有之右ハ公立師範學校於テ試驗ヲ遂ケ其學力ヲ判シ候義

ト心得可然哉〔指令〕書面伺之通 第一條 伺ノ通 第二條 私立學校設置ノ際尙シ實際支障有之者ト認定候共縣廳限リ差停候儀不相成其都度詳細事由ヲ具シ文部省へ伺出儀ト可相心得事 第三條 私立學校ノ教則開申ノ際土地ノ情况ヲ察シ該教則中實際不適當ト認定候廉有之トモ指示ノ上引直サセ候儀不相成其都度詳細事由ヲ具シ文部省へ伺出儀ト可相心得事 第四條 教員ニ相應セル學力ハ各地方適宜ノ方法ニ因テ證明可致故ニ公立師範學校於テ試驗ヲ遂ルカ如キモ亦其一法ト可相心得事 但右證明ノ方法ハ文部省へ伺出儀ト可相心得事

〔衛生〕

福島縣ヨリ電報ニテ内務省へ伺

戸長ヲシテ衛生委員ヲ兼テシムルハ不苦哉相伺フ〔指令〕戸長ヲシテ衛生委員ヲ兼テシムル儀ハ伺ノ通り

〔衛生費〕

石川縣ヨリ電報ニテ内務省へ伺

衛生課設置ニ付テハ十二年乙五十六号町村衛生ノ費用ハ地方稅敷又乙五十五号ノ地方衛生ニ關スル費用ハ官費敷費途ノ區別ヲ問フ〔指令〕町村衛生委員ノ費用ハ其町村ノ協議ニ附スヘシ衛生課ノ費用ハ追テ何分ノ沙汰ニ及フヘシ

〔軍隊〕

陸軍省ヨリ太政官へ上申

陸軍々樂隊ノ儀ハ陸軍職制第五十條揭示ノ如ク近衛各鎮台へ被置候筈ニ付テハ今後該隊生徒卒業致候節ハ其人員ニ應シ便宜編隊漸ク以テ衛臺へ配賦可致候條此段及上申候也〔御指令〕上申ノ趣閣置候事

○伺指令

〔家督相續〕

山口縣ヨリ内務省へ伺

戸主死去跡嗣子幼年ニテ家事難整ニ付該籍ニ在ル戸主ノ實弟ヲ以テ家督相續致サセ右嗣子ヲ更ニ其繼嗣ニ相定度出願候者有之素ヨリ幼年ト雖モ戸主ニ相定メ後見人可据置ハ當然ニ候得共一家ノ都合ニ依リ親族協議ノ上ハ聞届不苦候哉至急御指令被下度此段相伺候也

〔地方官會議〕

千葉縣ヨリ内務省へ伺

今般地方官會議被相開候ニ付來ル二月一日迄ニ着可致旨被相違右參會ニ際シ事務上差支又ハ病氣等ニテ上京難致節ハ書記官ヲシテ代理セシムル儀ニ候得共當縣ノ儀ハ京地ニ僅一日程ニシテ往復スルテ得ベキ近方ニモ候間全快スルキハ半途ニテ代理ヲ止メ出席スル事并ニ當初ヨリ參會致シ居候テ事故アリ中間代理ヲ出席セシメ候等不苦儀トハ存候得共議事規則中別ニ明示無之ニ付如何心得可然哉至急御指示被下度此段相伺候也

〔徵兵令〕

千葉縣ヨリ陸軍省へ伺

一徵兵令第二十八條第二項第三項第二十九條第一項ハ總テ實子孫ヲ指シ候儀ニ可有之候ヘレ第二十八條第四項但書ノ儀ハ本項及ヒ昨年御省達甲第二十二號御達第一項等ニ對シ推考スルキハ該但書ニ限リ自然養子(嗣子)モ含有シ居候儀ト相心得可然哉一戸主年齢五十歳未滿ノ者ノ養子(嗣子)ハ假令幼稚ノ時賞受養育致候者ト雖モ本年十月廿七日ノ區分無之無論徵集スル儀ト相心得可然哉

一徵兵事務條例第四百十一條ニ徵兵令第六十四條ノ免役料ハ檢査ノ上合格者ノ之ヲ徵收スヘシト有之然レ同令第二十九條項目中ニ當ル者ニシテ免役料上納願出候ハ檢査ノ上合格者ノニ徵收候儀ト相心得可然哉 右件々御指揮有之度候也(指令)第一項伺之通 第二項昨年十月二十六日前既ニ養嗣子トナセシ者ハ當省達甲第二十二號第一項ノ例ニ準ス 第三項徵兵令第二十九條ノ項目ニ當ル者ハ第二豫備徵兵召集ノ節檢査合格者ノニ徵收スヘシ

〔徵兵令〕

東京鎮臺ヨリ陸軍省へ伺

今般改正徵兵令并徵兵事務條例御頒布相成候就ハ左ノ件々御指令有之度此段相伺候也 第一條 年齢五十歳未滿ノ者隱居シ其嗣子(實子)ヲ以テ相立タル戸主并附籍主ハ一戸主ノ權ヲ有スルニ依リ本令第二十八條第二項本文ヨリ可進儀ニ候哉但附籍主ノ嗣子或ハ承租ノ孫ハ常備軍徵集ニ可應儀ニ候哉 第二條 本令第六十一條届出期限後一戸主死没ノ者アリ之レガ爲メ養子或ハ相續人トナリ新ニ定ムル戸主ハ前條本文ノ如ク心得可然哉但届出期限後年齢五十歳未滿ノ者癡疾或ハ不具等ニシテ產業ヲ營ムル能ハサル者アリ之レガ爲メ新ニ養子(嗣子)或ハ相續人トナル者モ亦本文ニ準シ可然哉 第三條 退轉セシ本令第二十八條第一項但書ニ該テス同項本文ニ可進儀ニ候哉 第四條 年齢五十歳以上ノ者實ノ男子アルモ尙他ノ養子ヲ以テ嗣子ト定ムルキハ實子 徵兵年齢未滿ナレハ其嗣子ハ本令第二十八條第三項ニ該當可然哉 第五條 嗣子或ハ承租ノ孫逃亡シテ後チ復歸セサルニ依リ管應ノ許可ヲ得其他ノ子孫

○伺指令

ヲ以テ嗣子或ハ承祖ノ孫トナス者ハ本令第二十八條第三項第二十九條第一項ノ本文ニ可準儀ニ候哉

第六條 本令第三十條第五項父兄ノ失跡ト徵兵各自届出期限ハ即チ九月十五日前幾年ノ月ヲ以テ區域相立可然哉

第七條 戶主幼稚ノ故ヲ以テ伯叔父等ニテ後見セサレバ一家生活ノ道ヲ失フ者ハ本令第三十條第五項ニ準テ可取扱儀ニ候哉

第八條 徵兵年齡ニ至リ逃亡シ翌年廻メ入者ハ本令第六十七号ヲ以テ取扱可然哉但シ逃亡年月ノ久シキ者ハ徵集適令ノ制限可相立儀ニ候哉

第九條 本令第六十七條(前零)第六十一條ニ示ス處ノ定規ノ届出ヲ怠タル者ハ(中零)翌年廻メ入者ニ先テテ入營セシムヘキトアリ右ハ同令第二十八九兩條ニ適當免役ノ者ト雖モ先入兵トシテ可取扱儀ニ候哉

第十條 徵兵事務條例第十五條并第二百一十一條中ニ同郡區徵兵ノ戶主トアリ右ハ常備軍規役中ノ者父兄等ノ戶主ヲ專稱可致儀ニ候哉

第十一條 徵兵各自届出終ルノ後他ノ使府縣ニ養子トナリシ者ハ事務條例第十九條ニ依リ可取扱儀ニ候哉但届出期限後ニ罹ルヲ以テ五十歳以上ノ養子アリ本令第二十八條第三項本文ニハ該當可致儀ニ候哉 (指令) 第一條同ノ通 第二條 同ノ通但書ノ儀届出期限後ト雖モ徵兵令第廿八條第五項ノ例ニ準ス 第三條 絶家再興ノ戶主ハ本家再興ト雖モ徵兵令第廿八條第一項但書ノ例ニ準ス 第四條 實男子アリテ故ナシ養子ヲ以テ嗣子トナス其嗣子ハ徵集ニ應セザルヘシ 第五條 更ニ嗣子又ハ

承祖ノ孫トナス者ハ徵兵令第卅條第五項ニ準スヘシ 第六條 父兄失跡ノ年月ニ區分ナシ 第七條 子弟ニ非サレハ徵兵令第三十條第五項ノ例ニ準シ難シ 第八條 同ノ通但書ノ儀逃亡ノ年月久シト雖モ年齡ヲ制限セズ 第九條 徵兵事務條例第百四十四條揭示ノ通 第十條 同ノ通 第十一條 同ノ通但書ノ儀徵兵令第二十八條第四項ニ準シ難シ

〔徵兵令〕 熊本鎮臺ヨリ陸軍省ヘ伺

徵兵令第三章第十六條徵兵事務官ハ後備軍使府縣駐在官一人之ニ任ス府縣徵兵事務官ト郡區ヲ巡行シ徵兵下檢査ノ事ヲ掌ル云々ト有之右ト下檢査ハ凡何月ヨリ施行可致儀ニ候哉後備軍使府縣駐在官徵兵下檢査事務手續ノ儀ハ如何相心得可然哉

後備軍使府縣駐在官一人府縣徵兵事務官ト共ニ徵兵下檢査施行ノ際該縣管内廣濶檢丁人員多數殊ニ島嶼等有之到底一組ニテハ期日内ニ難被行見込有之縣ニアツテハ該縣駐在書記ヲシテ二組ニ分派セシメ右ト下檢査爲致候テ可然哉 右三件御指揮被下度此段相伺候也 (指令) 第一條第二條徵兵事務條例第五章乃至第七章ノ諸條ヲ參看スヘシ 第三條事由ヲ詳記シ其都度伺出ヘシ

〔戶籍〕 廣島縣ヨリ陸軍省ヘ伺

歸郷療養ノ者養家離縁其他屬籍變換ノ儀ニ付明治十年八月布達假規則第三條ニ照シ往々當臺ヘ願出候向モ有之候處屬籍變換等ノ儀ハ無論各自本貫廳ニ於テ聞届其起當臺ヘ通知致候テ可然哉此段相伺候也 (指令) 伺ノ通

〔徵兵令〕 茨城縣ヨリ陸軍省ヘ伺

○伺指令

第一條 公立師範學校ニ於テ卒業證書ヲ得タル教員其教員ヲ罷メ候トモ右證書ヲ所持
 ナル上ハ平時免役ニ可屬哉
 第二條 達甲第二十二號取扱心得第一項中年齡五十歲未滿ノ者嗣子ト有之右ハ五十歲
 未滿ニテ嗣子ナキ者他家ノ二三男ヲ以テ徵兵令改正即チ昨年十月廿七日以前養子（
 嗣子）ト定メ候者ハ平時免役ニ屬シ可然哉
 第三條 女戸主ノ儀ハ年齡五十歲前後ヲ以テ區分シ取調方男子ニ異ナルヲ無之候哉
 第四條 附籍戸主ハ平常戸主ト異ナリ平時免役ニ屬シ可然哉
 第五條 同上長男（嗣子ニ當ル者）ハ常備ニ徵募致シ可然哉 右件々御指揮相成度候
 也〔指令〕 第一條第二條第三條同ノ通 第四條徵兵例第廿八條第一項ニ準ス
 第五條同ノ通

〔兵員補欠〕

熊本縣ヨリ陸軍省ヘ伺

本年常備各兵ノ内病氣或ハ事故等ニテ入營延期ノ者并入營后死没ノ者ハ既ニ客月補充
 兵ヨリ常備ニ繰揚補欠致候處其後死没其他病氣等ニテ免役候者凡十餘名有之就テハ補
 充兵服役延期ノ儀達甲第十八号御達相成未ク服役中ノ者ニ付漸次常備ニ繰揚右補欠致
 候テ可然哉此段相伺候也〔指令〕 伺ノ趣本年定例ノ補充相濟已ニ去ル十一月十七日
 達甲第十九号ヲ以テ補充兵解散ノ儀相達候ニ付別ニ補充兵無之儀ト可相心得事

〔徵兵令〕

大坂鎮臺ヨリ陸軍省ヘ伺

第一項 徵兵令第三條志願者ハ徵兵下檢査ノ節書面ヲ以テ願出ル者ハ出願ノ順次ニ名
 簿ヲ製シ置其年定員丈ケテ可開屆儀ニ候哉

第二項 第廿八條第四項ニ嗣子ナキ者ノ養子（嗣子）ト有之ニ付他條單ニ嗣子ト散見ス
 ル者ハ實子ニ限リ候儀ト相心得可然哉

第三項 同條第廿九條第三項ノ陸海軍常備在役ハ將校下士卒一般ト相心得可然哉

第四項 同條第十項ノ三ヶ年ハ雇入雇止數度ニ及ヒ中絶スト雖モ數年間ノ年月ヲ通算
 シ已ニ三ヶ年ヲ經過スレハ該項ニ宛テ可然哉

第五項 第三十條第一項ハ徵兵檢査ノ際本人ヨリ志願ノ旨口述スレハ直ニ該項ニ可宛
 哉又ハ嘗テ書面ヲ以テ願中ノ者ニ限候哉

第六項 同條第三項ハ兄明年四月常備免役ニ臨ミ弟徵兵相當スル時ハ兄弟出入交互ナ
 ルヲ以テ弟ハ猶豫ノ限ニ無之候哉

第七項 第卅二條ニ當ル者ハ其時々戸長ヘ可届出ニ付戸長ハ之ヲ取纏メ置事務條例第
 二十條郡區長ヘ届出ノ節同時ニ届出候筈ト相心得可然哉（但本文檢査時限ニ至ル迄
 ノ間ニ猶該條ニ當ル者有之時ハ徵兵檢査所開設ノ上同所ヘ届出可然哉）

第八項 第三十四條第三十五條ニ當ル者ハ毎年檢査時限ニ至レハ事務條例第十二條乃
 至第十五條ノ手續ニ準シ事由ヲ記シタル詳細書ヲ以テ徵兵檢査所ヘ可届出筈ニ候哉

第九項 第卅八條人別表中父母其他ノ年齡ハ事務條例第百三十八條ニ準シ一月ヲ以テ
 取調可然哉

第十項 第五十條番號割符ハ一般ノ在役兵轉居改姓名等ノ節ハ時々認換可相渡候哉

第十一項 第五十六條但書ノ入營延期翌年廻シニ相成候者ノ補缺ハ事務條例第百二十
 五條十一月一日ヨリ同月十日迄ニ入營セシムル節共ニ補缺可致儀ニ候哉

○伺指令

第十二項 徵兵事務條例第七十九條及第八十三條ノ讀書算術ハ試験ヲ遂ケ確定スル儀ニ候哉

第十三項 同條例第八十九條籤簿掛ハ何官ヲ以テ可任候哉

第十四項 同條例第十八章豫備徵兵名簿ハ鎮臺ニ於テ管轄スル而已ニシテ各師管後備軍本部ヘハ關係無之者ト相心得可然哉

第十五項 豫備軍後備軍ノ者他管ヘ出ル時或ハ他管ヘ轉籍スル者ノ願届ハ從前ノ第一第二後備軍同様相心得可然哉右願届書差出方郡區長ヨリ府縣駐在官ヘ移シ該官ヨリ其師管後備軍本部ヘ爲指出可然哉 右十五項御指令相成度此段相伺候也 (指令)

第一項 志願者ハ徵兵外ノ者ヲ指稱ス徵兵ニシテ合格ノ者ハ抽籤ヲ以テ採用スヘシ

第二項 徵兵令第廿八條第四項但書ノ嗣子ヲ除ノ外伺ノ通

第三項 下士以下ヲ指稱ス

第四項 三ヶ年連續ノ者ニ非サレハ該項ニ當ヘカラス

第五項 海兵召募ノ布達ニ由リ已ニ願書ヲ上呈セシ者タルヘシ

第六項 伺ノ通

第七項 徵兵事務條例第十八條第廿條及第五十八條ヲ參看スヘシ

第八項 徵兵令第三十四條及第三十五條ニ當ル者届出ノ手續ハ始テ徵兵當ノ者届出手續ト異ナルナシ

第九項 伺ノ通

第十項 認換ニ及ハス朱字ニテ記入スヘシ

第十一項 第十二項 伺ノ通

第十三項 筆生ヲ以テ之ニ充

第十四項 第十五項 伺ノ通

〔私立學校〕 和歌山縣ヨリ文部省ヘ伺

本年九月第四十號公布教育令第廿三條私立學校教則ノ儀ハ調査ノ上其趣意教育ノ旨ニ悖リ或ハ世教ニ害アルト認マルモノハ改正セシメ可然哉至急何分ノ御指揮相仰候也

〔指令〕 書面私立學校教則教育ノ旨ニ悖リ或ハ世教ニ害アルト認マル節ハ詳細其由ヲ具シ文部省ヘ伺出候事

〔小學補助金〕 千葉縣ヨリ文部省ヘ伺

教育令御發行相成學區取締ノ職廢止セラレ候ニ付テハ該職於テ是迄取扱來リ候事務ハ悉皆郡長ニ委任セサルヲ得ズ右様相成候得ハ郡役所ノ事務繁忙相成費用モ亦嵩ミ候ハ必然ニ有之然ルニ郡役所ノ費用ハ本年縣會ニ於テ相定リ且郡吏モ定員之レアル次第ニ付自今特ニ一郡役所ニ月俸金十二圓以下ノ吏員二名ヲ増置シ其給料旅費等ハ從前學區取締給料旅費等ニ充テ置候小學補助金ノ内ヲ以テ仕拂申度右取調上都合有之儀ニ付至急何分ノ御詮議有之度此段相伺候也 (指令) 伺ノ趣難聞届儀ニ候事

〔徵兵令〕 福島縣ヨリ陸軍省ヘ伺

第一條 徵兵令第四章第二十七條中第一項陸軍醫官検査規則ニ照シ云々ト有之ハ其兆候アルモノハ下検査ヲ遂ケ直ニ免役簿ニ組込可申候得共徵兵ニ關スル一般ノ布告達被爲應候上ハ該規則モ廢止相成候ハ無論ノ儀ニテ本年ノ儀ハ如何取扱可然哉

第二條 同第三十條中第二項兄弟同時云々ト有之ハ同年中徵兵適齡ノ者(譬ヘハ養子兄弟ノ如キモノ)トハ存候得共或ハ常備軍中ノ兄弟タル者モ合著候儀ニモ可相之哉

第三條 同第六章第六十二六十三兩條ニ據レバ從前甲縣ニテ翌年廻シニ相成候者モ即今乙縣下寄留中ニ付其地ニテ検査願出候者モ各自ノ情願ニ任セ可然儀ト存候得共如何相心得可然哉右件々御指揮被下度候也 (指令) 第一條地方徵兵醫官職務概則并ニ徵兵事務條例ニ照シ處分スヘシ 第二條養子又ハ常備軍服役中ノ兄弟ハ之ニ合著

○伺指令

モテ雙子或ハ兄弟中翌年廻トナリ同時ニ徵兵ニ當ル者トス 第三條各自ノ情願ニ任
スルモ苦シカラズ

〔營業稅〕 神田區役所ヨリ東京府ヘ伺

當區淡路町二丁目一番地士族大宮榮ヨリ別紙之通投鞠營業出願ニ候處地方稅賦課目ニ
相見ヘ不申就テハ叔稅ハ勿論鑑札附與不致義ト相心得可然哉爲念別紙本人願書并仕方
書ヲ添ヘ相伺候條至急御指揮有之度候也 (別紙畧ス) (指令) 書面伺之通

〔証書〕 牛込區役所ヨリ東京府ヘ伺

本年七月三日付ヲ以テ庶務課長ヨリ別紙ノ通達有之候間區會ノ決議ニヨリ共有物貸借
賣買等ニ係ル記名ハ區長ノ名印ヲ相用候就テハ共有金貸付候抵當ニ借受人所有地ヲ差
入候節ハ其公証割印等ノ義モ有宛名之區長ニ於テ取扱候譯ニ相成右ハ去十年五月内務
省日誌三重縣伺ヒニ可相准哉或ハ昨十二年丙第六十六號御府御達ニ準據シ公証取計可
申裁的例不心得候間至急御分御指揮有之度此段相伺候也

別紙 明治九年常廳甲第四百四十八號乙第八十八號惣代人心得并乙第七十六號總代人選
舉方ノ義ハ本年第二十二號公布ニ依リ自ラ消滅ニ属シ候ニ付區會町村會ニ於テ未定ノ
事件ニシテ明治九年第三百三十號公布第一條第二條ニ係ル諸證書ハ自今十五區ニ於
テハ區長六郡ニ於テハ戶長ノ名印ヲ用候儀ト御心得可有之此旨及御通達候也

〔指令〕 書面伺之趣去十二年本廳丙第六十六號達書ニ準シ候義ト心得ヘキ事
〔遊藝稅〕 本所區役所ヨリ東京府ヘ伺
遊藝師匠ヲナス者一戶一人ニシテ一種ニ種之遊藝ヲ指南スル者(或ハ清元常盤津節又

ハ手踊リ等ヲ兼ル者)其藝一種毎ニ徵稅可致儀ニ可有之候哉亦ハ何程ノ遊藝ヲ指南ナ
ス共壹戶壹人ニ候得ハ本藝ヲ以テ稅ヲ課シ可然哉日下當區在籍内ニ右標之者有之候間
至急御指令有之度此段相伺候也 (指令) 書面伺ノ趣一人ニテ數種ノ遊藝ヲ指南候共
各別ニ課稅候儀ニハ無之儀ト可相心得事

〔戶數割稅〕 下谷區役所ヨリ東京府ヘ伺

當區下谷中阪町五十七番地平民解澤露厓儀戶數割稅未納之頗末別紙甲身書面之通ニ
付不得止明治十年第七十九號公布ニ照シ可及處分候就テハ別紙丁号書取ノ手續ヲ以テ
致處置可然哉爲念相伺候條至急御分御指揮有之度候也

戶數割稅未納者處分順序

戶數割稅未納ノ者ハ明治十年第七十九號公布ニ照シ土地家屋ヲ除キ他ノ財產ヲ公賣ス
ル旨本人ニ達シ且該方面ノ分署ニ照會シ區吏本人ノ宅ニ到リ巡查立會ノ上財產ヲ取調
ヘ隣地ノ地主或ハ差配人ヲシテ管守セシメ本人宅并三橋前及區役所前等ノ揭示場ヘ財
產雜賣ノ揭示ヲ爲シ三日ヲ經ルノ後高札人ヘ賣拂未納之金圓ヲ收メ殘金ハ本人ニ還付
スル一 差押ラ可カサル品類 一 現在着用ノ衣類 一夜具 各一ト通 一 鍋釜及炊
具各一ト通 (揭示案畧ス) (指令) 伺之趣左ノ通可相心得事 財產取調ノ立會ハ親
戚又ハ地主差配人等一時其財產ヲ保管セシムル者ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ警察官吏
ノ立會ハ本人ニ於テ取調ヲ拒ミ又ハ強暴ノ所爲アル時ニ限ルヘシ公賣ニ付シサル物
品ハ身代限規則中ノ品類ニ準スヘシ 右之外伺之通

〔私生ノ子〕 麹町區役所ヨリ東京府ヘ伺

○伺指令

本國人ノ婦人本郷區内英國公使館附屬并ニ被雇中私通ノ末舉タル兒ヲ協議（約定証書無之由）明治六年一月第二十一号ニ準シ其婦人ヨリ届出候義ハ勿論ト存候得共外國人ニ關係且目下届出ノ者有之候間此段相伺候至急御指揮相仰候也（指令）書面伺之通定籍可致義ト可相心得事

〔養女〕

牛込區役所長ヨリ東京府へ伺

年少ノ者我ヨリ年長ノ者ヲ養女ニセントスル者有之右ハ年長ノ者ヨリ年少ノ者ヲ養父ト唱候テハ穩當ナラサル様被存候然レ共養女結約ノ上ハ養父女ノ間其先後ヲ問ス本人ノ存意ニ任セ可然哉目下差掛候義有之候ニ付何分ノ御指揮有之度此段相伺候也

〔指令〕書面伺ノ通

〔書入質入〕 下谷區役所ヨリ東京府へ伺

人民所有ノ家作質入証書へ公証願出候者有之其旨趣承リ糾候處期限中建物ヲ債主へ引渡シ他人へ貸渡スモ又ハ負債主ニ於テ借受候共之ニ生スル利子ハ悉ク債主へ取メ満期ニ至リ可受戻契約ニテ全ク地所ヲ質入スルト同様ノ儀ニ有之然ルニ建物書入質ノ規則ナルヤ負債ノ抵當トナシ証書ニ書入ル迄ニ其全部ヲ舉テ債主ニ任ヌ等ノ旨趣ニ之レナキニ依リ該規則ニ照準シ難キモノトシ公証ヲナサレバ只々人民相對ノ契約ニ止リ債主ニ於テ信認スル所ナク双方融通ノ便ヲ失ヒ可申因テ其建物ヲ債主ニ引渡スモ書入質規則ニ明文ナキノミニテ敢テ規則ニ矛盾スト云フニアラザレハ其自由ニ爲任外成規ニ抵觸スル廉無之候ハ、書入質ト見做シ公証致シ遣シ可然哉爲心得此段相伺候也（指令）書面伺ノ通可相心得候事

〔畢〕

一官令類輯

定價

每月一回出版 金貳十錢

府外郵送ハ別ニ郵税金三錢

前金

金壹圓十二錢

六ヶ月分

府外郵送ハ別ニ郵税金十八錢

同

金貳圓廿錢

十二ヶ月分

府外郵送ハ別ニ郵税金三十六錢

本國人ノ婦人本郷區内英國公使館附屬并ニ被雇中私通ノ末學タル兒ヲ協議（約定証書無之由）明治六年一月第二十一号ニ準シ其婦人ヨリ届出候義ハ勿論ト存候得共外國人ニ關係且目下届出ノ者有之候間此段相伺候至急御指揮相仰候也（指令）書面伺之通定籍可致義ト可相心得事

〔養女〕

牛込區役所長ヨリ東京府へ伺

年少ノ者我ヨリ年長ノ者ヲ養女ニセントスル者有之右ハ年長ノ者ヨリ年少ノ者ヲ養父ト唱候テハ穩當ナラサル様被存候然レ共養女結約ノ上ハ養父女ノ間其先後ヲ問フ本人ノ存意ニ任セ可然哉目下差掛候義有之候ニ付何分ノ御指揮有之度此段相伺候也

〔指令〕書面伺ノ通

〔書入質入〕下谷區役所ヨリ東京府へ伺

人民所有ノ家作質入証書ハ公証願出候者有之其旨趣承リ糾候處期限中建物ヲ債主へ引渡シ他人へ貸渡スル又ハ負債主ニ於テ借受候共之ニ生ズル利子ハ悉ク債主へ收メ満期ニ至リ可受戻契約ニテ全ク地所ヲ質入スルト同様ノ儀ニ有之然ルニ建物書入質ノ規則ナルヲ負債ノ抵當トナシ証書ニ書入ル迄ニ其全部ヲ舉テ債主ニ任ス等ノ旨趣ニ之レナキニ依リ該規則ニ照準シ難キモノトシ公証ヲサハレバ只々人民相對ノ契約ニ止リ債主ニ於テ信認スル所ナク双方融通ノ便ヲ失ヒ可中因テ其建物ヲ債主ニ引渡スモ書入質規則ニ明文ナキノミニテ敢テ規則ニ矛盾スト云フニアラザレハ其自由ニ爲任外成規ニ抵觸スル廉無之候ハ、書入質ト見做シ公証致シ遣シ可然哉爲心得此段相伺候也（指令）書面伺ノ通可相心得候事

〔畢〕

明治十三年三月五日御届
同 三月六日出版

編輯人

山田 澤馬

出版人

石井 直良

東京京橋區弓町十七番地

發兌 明報社

定以紙拾錢

利 聞

| | |
|-----------|---|
| 館 書 圖 京 東 | |
| 函 二 三 | 門 |
| 架 六 | 部 |
| 號 | 類 |

行 報

禁電子式複写

新報 明治三十三年一月

官令類編

發兌

明報社

030900001-6

CZ-4-022

官令類輯 第1、2号 (明治13年1、2月)

明報社

M13

BBC-1241